

2023年5月9日
東日本旅客鉄道株式会社

ロッカーの多機能化により駅を物流の拠点にします

- JR東日本グループは、預け入れが主な用途のロッカーについて、ウェブアプリ上での空き状況の検索を充実させるほか「予約、預入、受取、発送」の一台4役の機能を整備するなどロッカーの多機能化を進め、駅を物流の拠点にしていきます。
- 駅を物流の拠点とすることにより、ECビジネスにおけるラストワンマイルの課題や物流の2024年問題が抱えるドライバー不足などの社会的課題の解決に貢献します。駅の利便性を高めることを通じ、「変革2027」に掲げる「日常生活における時間価値を高めるサービス」の実現を加速させ、さらに「Beyond Stations構想」を推進します。
- ロッカーの多機能化と駅の物流拠点化を推進するため、2023年7月3日に「株式会社JR東日本スマートロジスティクス」を設立します。

1 ロッカーの多機能化に向けた新型ロッカーの導入と実現するサービス

新たに導入するロッカーと運送事業者やECサイトなどを配送プラットフォームシステムにより結びつけることで、これまでの預け入れだけでなく荷物や商品の受け取り・発送など新しいサービスの提供を可能にします。

今回実現するサービスの概要図



